中学校における特別活動（学校行事）としての合唱活動と、その競技性 2
――採点システムを中心に――

柴田　篤志

構成

0. はじめに
1.　合唱祭・合唱コンクールのレギュレーション
　　1-1　曲目リスト作成
　　1-2　タグの精査
　　1-3　課題曲、自由曲の決定
　　1-4　審査方法特別活動における学校行事、並びに合唱コンクール
2.　模擬合唱コンクール
　　2-1　審査結果
　　2-2　考察
3. まとめ
（参考資料　講評）

0. はじめに

本論文は、中学校における音楽活動の中でも多くの現場で半ば定番となっている合唱活動について、特別活動（特に学校行事）の視点から再考することを目途とする。平成 29 年度の同タイトル論文の続稿となる。

本論文では、平成 30 年度の名古屋音楽大学における教職実践演習での「模擬合唱コンクール」を通して、中学校合唱祭・合唱コンクールのへの評価の視座を「学校行事」並びに「学級活動」という特別活動の求める資質･能力を手がかりとして提案することを目指す。特に本稿では、競技性に視座を置き、いかなる「審査」方法を用いることでどのような効果が期待できるかについて論考する。

競技性を伴う「合唱コンクール」においては、順位付けがモチベーションを喚起する一方、ネガティブな学びを強いる危険性も孕む。自分たちの活動（学級活動としての練習、学校行事としての本番）が如何に順位に反映したのか、そのシステムが《生徒にどのように周知されているか》は最も重要視すべき部分であると考える。昨年度の論文をそのまま

引用すれば「手続きの普遍性、公正性」を「採点システム」に取り入れることが研究の目標となる。

1.合唱祭・合唱コンクールのレギュレーション

本研究は、実際に平成30年度「教育実践演習」の授業で行った“模擬合唱コンクール”を元に論述する。レギュレーションは
・中学校を想定
・クラス対抗
・学年を設定する
・全校合唱、学年合唱（課題曲)、自由曲を歌う
・全校合唱は審査の対象とはならない
これが基本的な前提となる。先年の同じ試みと比べると全校合唱を加え、全ての参加グループを同学年とする縛りは設けず、各学年向けに作成された曲目リストからどの楽曲を選ぶかによって学年が決定する、という方式に改めている。

1-1　曲目リスト作成

実際の教育現場において歌われる合唱曲のレパートリーに関しては、現状で統計的調査ができて居らず、あくまでも推測に基づいての感触ではあるが、「曲目の入れ替えは活発ではない」という実感がある。平成26年の例では、「Yell」、「虹」、「証」といったNHKコンクールの課題曲となったポピュラー楽曲起源のもの、同じくNHKコンクール起源の「聞こえる」、「ひとつの朝」、「信じる」、「予感」などが主として高学年に歌われており、古い楽曲では「モルダウ」、「空駆ける天馬」、「走る川」、「怪獣のバラード」、「涙をこえて」などは未だ定番の座から降りていない（飽くまで愛知県、三重県などに限ってだが)。私的感触には過ぎないが、そんな中、低学年の曲だけは若干曲目の入れ替えがあると感じている。詳しくは来年度以降に別稿としてまとめたい。

今回の模擬合唱コンクールは、コンクールのシステムそのものを作ることから履修者に課題として取り組ませている。履修者47人を8人の5チームと7人の1チーム、計6チームに分け、チーム毎に「他のチームに歌ってもらいたい曲」を自由にリスト化することを最初の課題とした。

その際、条件として 1.かんたんな曲、2.難しい曲、3.短調の曲、4.アップテンポの曲、5.伴奏が格好いい曲、という特徴を含む曲を最低一曲含めることと、リストに入れた曲にタグ付けを行うこととを課した。この条件は先行研究で用いた「五要素」と共通している。

タグ一覧はこれも先行研究でも用いた 11 種を援用する。

（卒）卒業、別れ系
（社）社会問題系…戦争、平和、環境など
（Ｆ）ファンタジー系…意味不明なものなど
（Ａ）動物系
（友）友達、家族系
（自）自然系
（神）神話、民話系
（無）無伴奏のもの
（Ｓ）ソロが入るもの
（Ｐ）ポピュラー系
（W）三拍子系

六つのチームを ABCDEF とし、その推薦曲を示すと次ページのようになる。6 チームによる推薦曲は 64 曲となった。ここで作成されたリストを元に、タグを精査した上で全校合唱、各学年課題曲、各学年自由曲のリストを作成することを目指す。なお T は教員による推薦曲で、学生の作成した 64 曲に欠けた特徴を持つ楽曲を補ったもので、これが 12 曲となる。結果としてリスト全体では 76 曲となった。

	曲名	作曲	A	B	C	D	E	F	T	推薦チーム数	
1	HEIWAの鐘	白石哲也	○	○	○	○	○	○		6	1曲
2	COSMOS	ミマス/アクアマリン	○		○	○	○	○		5	1曲
3	空駆ける天馬	黒澤吉徳	○	○			○	○		4	
4	Believe	杉本竜一	○		○	○		○		4	
5	旅立ちの日に	坂本浩美	○	○		○		○		4	6曲
6	大地讃頌	佐藤眞	○	○	○			○		4	
7	モルダウ	岩河三郎/スメタナ		○	○	○	○			4	
8	時の旅人	橋下祥路	○	○	○			○		4	
9	YELL	水野良樹/いきものがかり	○	○			○			3	
10	心の瞳	三木たかし	○	○	○					3	
11	マイバラード	松井孝夫			○	○		○		3	
12	大切なもの	山崎朋子	○			○		○		3	
13	Let's Search for tomorrow	大澤徹訓	○		○	○				3	10曲
14	明日へ	富岡博士	○		○			○		3	
15	怪獣のバラード	東海林修	○		○		○			3	
16	虹	信長貴富/森山直太朗	○				○	○		3	
17	手紙～拝啓十五の君へ	アンジェラ・アキ	○	○				○		3	
18	流浪の民	シューマン	○	○				○		3	
19	名付けられた葉	飯沼信義	○		○					2	
20	君と見た海	若松歓					○	○		2	
21	夢の世界を	橋本祥路	○					○		2	5曲
22	友～旅立ちのとき～	北川悠仁/ゆず	○	○						2	
23	青葉の歌	熊谷賢一	○					○		2	
24	春に	木下牧子	○							1	
25	花を探す少女	荻久保和明	○							1	
26	IN TERRA PAX	荻久保和明	○							1	
27	予感	大熊崇子	○							1	
28	夏の日の贈りもの	加賀清孝	○							1	
29	言葉よりも	松井孝夫	○							1	
30	Story	AI	○							1	
31	ジェリコの戦い	スピリチュアル	○							1	
32	心の中にきらめいて	橋本祥路	○							1	
33	信じる	松下耕	○							1	
34	はじまり	木下牧子		○						1	
35	ふるさと(嵐)	youth case		○						1	
36	フェニックス	明石潤祐		○						1	
37	Gifts	superfly		○						1	

38	ポジティブ太郎	上田真樹	○							1
39	走る川	黒澤吉徳		○						1
40	親知らず子知らず	岩河三郎		○						1
41	カリブ夢の旅	橋下祥路		○						1
42	Tomorrow	杉本竜一		○						1
43	ここにしか咲かない花	小渕健太郎/コブクロ		○						1
44	消えた八月	黒澤吉徳			○					1
45	羽ばたこう明日へ	松井孝夫			○					1
46	海の不思議	平吉毅州				○				1
47	もみじ					○				1
48	小さな空	武満徹				○				1
49	○と△のうた	武満徹				○				1
50	天地創造					○				1
51	キリエ					○				1
52	俵積みの歌	松下耕				○				1
53	ヒカリ	松下耕				○				1
54	今日は君のbirthday	若松歓				○				1
55	くちびるに歌を	信長貴富				○				1
56	道標	清水宏美				○				1
57	証	坂井一生/flumpool					○			1
58	あなたへ	筒井雅子					○			1
59	河口	團伊玖磨					○			1
60	青鷺	長谷部匡俊					○			1
61	3月9日	藤巻亮太/レミオロメン					○			1
62	翼をください	村井邦彦/赤い鳥					○			1
63	新しい世界へ	名和田俊二					○			1
64	Storia	梶浦由記/kalaifna					○			1
65	大地の歌	熊谷賢一						○		1
66	野生の馬	岩河三郎						○		1
67	聞こえる	新美徳英						○		1
68	群青	信長貴富/小田美樹						○		1
69	この地球のどこかで	若松歓						○		1
70	ひとつの朝	平吉毅州						○		1
71	鴎	木下牧子						○		1
72	思い出は空に	川崎祥悦						○		1
73	航海	広瀬量平						○		1
74	そのひとがうたうとき	木下牧子						○		1
75	川	石桁冬樹						○		1
76	僕が守る	上田真樹						○		1

53曲（教員推薦12曲含）

全6チームが推した曲は一曲のみ(HEIWAの鐘)。5チームが推した曲も一曲のみ(COSMOS)。以下、4チーム推薦曲が6曲、3チーム推薦曲が10曲、2チーム推薦曲が5曲となり、複数チームが推薦した曲は全部で23曲となった。ここまでが、大学生にとっての合唱コンクール定番曲、と考えられる。大学の授業において中学生向けの合唱曲を学習する機会は非常に限られる為、これは即ち大学四年生が過去に体験した（歌う、若しくは聞く機会のあった）合唱レパートリーであると推測出来る。教員推薦曲には、こうした「直接経験の範囲外」にあり、今回のリストに入らなかった曲を補う意味がある。

なお、グループ分けは教員側は介入せず、学生側の自由意志に基づいている為、同じグループに属する限り共通体験が似通っていると考えられる。　教員推薦12曲も含め、単独チームが推薦した曲は53曲あり、今回作成のリストの2/3を占める。中高時代の音楽経験にポジティブな感情を抱いているものが多いであろう音大学生にして始めて可能になった多様な選曲か、と問われるとそう単純でもない。私の考える限り定番曲の中でも上位を占めそうな曲、例えば「春に」「予感」「信じる」「走る川」などは推薦チームは一つに留まった。他のチームがこうした曲にネガティブであったというより、候補に浮かんでこなかったのだと考える。その一方で、通常なら上がらないであろう平成30年度のNHK合唱コンクールの課題曲（Gift、ポジティブ太郎）や武満徹の「混声合唱のためのうた」（小さな空、○と△の歌）なども入っており、リストの24番以降は非常に多様かつ魅力に富む。

1-2　タグの精査

リストの76曲全てを楽譜を配布しながら聴取、11項目のリストを精査する。当初これは作業行程に含まれていなかったが、初期リストのタグが余りに曲の内容を正確に反映していなかった為、時間がかかることを承知の上で行った。精査後のデータを表として次ページに示す。

易しい、難しいは完全に主観であるため、チームの解釈を集計したものの数だけでは定めず、教員が修正を加えている。

「易しい」に分類された18曲のうち、三票獲得せずにこのカテゴリに加えたのは8「時の旅人」、13「Let’s search for tomorrow」、15「怪獣のバラード」、21「夢の世界を」、66「野生の馬」の五曲で、13と21が二票、8と15が一票、66は獲得票なしだったが敢えて「易」としている。66は教員推薦で曲を知っている学生が少なかったため、アップテンポの音源に幻惑されてその難度を見誤ったと考えるが、意外だったのが21。こうした見過ごせない分類の存在が『修正』の根拠となっている。

	題名	作曲	島	輪	短	遠	伴	tag 卒	社	F	A	友	自	神	無	S	P	W		合計ポイント数
1	HEIWAの鐘	白石哲也				○			✓					神	無	S	P	W		6
2	COSMOS	ミマス/アクアマリン	○					卒	社	F ✓	A	友	自 ✓	神	無	S	P ✓	W		5
3	空駆ける天馬	黒澤吉徳			○	○		卒	社	F ✓	A	友	自 ✓	神	無	S	P	W		4
4	Believe	杉本竜一	○					卒 ✓	社	F	A	友 ✓	自	神	無	S	P ✓	W		4
5	旅立ちの日に	坂本浩美	○					卒 ✓	社	F	A	友 ✓	自	神	無	S	P	W		4
6	大地讃頌	佐藤眞						卒	社	F	A	友	自 ✓	神	無	S	P	W		4
7	モルダウ	スメタナ 岩河三郎			○			卒	社	F	A	友	自 ✓	神	無	S	P	W		4
8	時の旅人	橋本祥路	○					卒 ✓	社	F	A	友 ✓	自 ✓	神	無	S	P	W		4
9	YELL	水野良樹 いきものがかり		○	○			卒 ✓	社	F	A	友 ✓	自	神	無	S	P ✓	W		3
10	心の瞳	三木たかし						卒 ✓	社	F	A	友	自	神	無	S	P ✓	W		3
11	マイパラード	松井孝夫	○					卒	社	F	A	友 ✓	自	神	無	S	P	W		3
12	大切なもの	山崎朋子	○					卒	社	F	A	友 ✓	自	神	無	S	P	W		3
13	Let's Search for tomorrow	大澤徹訓	○					卒	社	F	A	友 ✓	自	神	無	S	P	W		3
14	明日へ	富岡博士						卒	社 ✓	F	A	友 ✓	自	神	無	S	P	W		3
15	怪獣のパラード	東海林修	○			○		卒	社	F ✓	A ✓	友	自	神	無	S	P ✓	W		3
16	虹	森山直太朗 信長貴富		○			○	卒 ✓	社	F	A	友	自	神	無	S ✓	P ✓	W		3

	曲名	作曲	易	難	短	速	伴	tag						推奨テーム数
								卒	社	F	A	友	自	
17	手紙～拝啓十五の君へ	アンジェラ・アキ		○				✓				✓		3
								神	無	S	P	W		
											✓			
								卒	社	F	A	友	自	
18	流浪の民	シューマン		○	○				✓				✓	3
								神	無	S	P	W		
										✓				
								卒	社	F	A	友	自	
19	名付けられた葉	飯沼信義			○								✓	2
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
20	君と見た海	若松歓					○						✓	2
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
21	夢の世界を	橋本祥路	○							✓		✓		2
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
22	友～旅立ちのとき～	北川悠仁/ゆず		○				✓				✓		2
								神	無	S	P	W		
											✓			
								卒	社	F	A	友	自	
23	青葉の歌	熊谷賢一					○						✓	2
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
24	春に	木下牧子						✓				✓	✓	A
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
25	花を探す少女	荻久保和明			○		○		✓					A
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
26	IN TERRA PAX	荻久保和明		○			○		✓	✓			✓	A
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
27	予感	大熊崇子							✓				✓	A
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
28	夏の日の贈りもの	加賀清孝	○									✓	✓	A
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
29	言葉よりも	松井孝夫							✓				✓	A
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
30	Story	AI												A
								神	無	S	P	W		
											✓			
								卒	社	F	A	友	自	
31	ジェリコの戦い	スピリチュアル		○	○	○			✓					A
								神	無	S	P	W		
								✓	✓					
								卒	社	F	A	友	自	
32	心の中にきらめいて	橋本祥路	○					✓				✓		A
								神	無	S	P	W		

	曲名	作詞	系	難	短	速	伴	Tag						対象ゲーム曲
								卒	社	F	A	友	自	
33	信じる	松下耕		○					✓					A
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
34	はじまり	木下牧子		○	○								✓	B
								神	無	S	P	W		
								✓				✓		
								卒	社	F	A	友	自	
35	ふるさと	youth case										✓	✓	B
								神	無	S	P	W		
											✓			
								卒	社	F	A	友	自	
36	フェニックス	明石奨祐	○							✓	✓		✓	B
								神	無	S	P	W		
								✓						
								卒	社	F	A	友	自	
37	Gifts	Superfly 太田静子										✓	✓	B
								神	無	S	P	W		
											✓			
								卒	社	F	A	友	自	
38	ポジティブ太郎	上田真樹		○								✓	✓	B
								神	無	S	P	W		
									✓					
								卒	社	F	A	友	自	
39	走る川	黒澤吉徳			○								✓	C
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
40	親知らず子知らず	岩河三郎			○			✓				✓	✓	C
								神	無	S	P	W		
								✓						
								卒	社	F	A	友	自	
41	カリブ夢の旅	橋下祥路	○							✓			✓	C
								神	無	S	P	W		
								✓						
								卒	社	F	A	友	自	
42	tomorrow	杉本竜一	○					✓				✓	✓	C
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
43	ここにしか咲かない花	小渕健太郎/コブクロ						✓	✓			✓	✓	C
								神	無	S	P	W		
											✓			
								卒	社	F	A	友	自	
44	消えた八月	黒澤吉徳		○	○		○		✓				✓	D
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
45	羽ばたこう明日へ	松井孝夫						✓				✓		D
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
46	海の不思議	平吉毅州		○						✓			✓	E
								神	無	S	P	W		
								✓						
								卒	社	F	A	友	自	
47	もみじ												✓	E
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
48	小さな空	武満徹		○								✓	✓	E
								神	無	S	P	W		
									✓					

	曲名	作曲	易	難	短	速	伴	tag 卒	社	F	A	友	自	神	無	S	P	W	音楽ゲーム曲
49	○と△のうた	武満徹		○						✓			✓		✓				E
50	天地創造																		E
51	キリエ													✓					E
52	俵積みの歌	松下耕		○	○				✓				✓	✓					E
53	ヒカリ	松下耕			○					✓			✓	✓					E
54	今日は君のbirthday	若松歓	○									✓					✓		E
55	くちびるに歌を	信長貴富							✓			✓	✓						E
56	道標	清水宏美						✓				✓					✓		E
57	証	坂井一生 /flumpool		○				✓				✓					✓		F
58	あなたへ	笛井雅子						✓				✓							F
59	河口	国伊玖磨					○						✓						F
60	青鷺	長谷部匡俊			○						✓		✓						F
61	三月九日	藤巻亮太 /レミオロメン						✓				✓					✓		F
62	翼をください	村井邦彦 /赤い鳥	○					✓	✓								✓		F
63	新しい世界へ	名和田俊二				○				✓		✓	✓						F
64	Storia	堀浦由記 /kalaifna											✓	✓			✓		F

	曲名	作曲	易	難	短	連	伴	tag						難度アーム値
								卒	社	F	A	友	自	
65	大地の歌	熊谷賢一			○	○					✓		✓	T
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
66	野生の馬	岩河三郎	○		○	○					✓		✓	T
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
67	聞こえる	新美徳英		○					✓				✓	T
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
68	群青	小田美樹 信長貴富						✓	✓			✓		T
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
69	この地球のどこかで	若松歓	○					✓				✓		T
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
70	ひとつの朝	平吉毅州		○			○	✓		✓			✓	T
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
71	鳴	木下牧子		○					✓		✓		✓	T
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
72	思い出は空に	川崎祥悦						✓				✓		T
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
73	航海	広瀬量平			○								✓	T
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
74	そのひとがうたうとき	木下牧子		○						✓		✓	✓	T
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
75	川	石桁冬樹		○	○								✓	T
								神	無	S	P	W		
								卒	社	F	A	友	自	
76	僕が守る	上田真樹		○					✓			✓	✓	T
								神	無	S	P	W		

「難しい」に分類された曲は 22 曲、そのうち三票獲得せずに「難」とされたのは 9「YELL」、10「虹」、17「手紙」、22「友」、34「はじまり」、48「小さな空」、57「証」の七曲。特徴は 34、48 以外の五曲が全て NHK 合唱コンクールの課題曲で、ポピュラーからの編曲であることが指摘出来る。学生側はこれを「難しい曲」として認知していなかったのだが、これは元曲を知っており、その合唱曲としての難度が楽譜から読み取れなかったためだと考えられる。実際、これらの曲は各パートへの旋律の割り振りであったりピアノの伴奏であったり、かなり高い難度が要求されるが「歌った経験が無い」プラス「曲を知っている」と難度を感知出来ないと言うことがここから推測出来る。音楽大学に通う学生にしてこうなる

わけで、中学生が「曲を聴いて選曲する」時も本来なら大変に高度な楽曲を“これなら歌える”と思って選んでしまうという可能性が指摘出来る。

今回タグ分類に修正を加えねばならなかった一番大きな理由は「短調」にあった。これは楽譜を見ずとも聞けば自明…と考えて作業を課したのだが、結果的にどのチームも短調と指摘しない曲が 7「モルダウ」、9「YELL」、19「名付けられた葉」、25「花を探す少女」、52「俵積みの歌」、53「ヒカリ」、60「蒼鷺」、73「航海」、75「川」と 9 曲もあった。これは短調の曲 18 曲の半分に相当する。この他にも 1 チームしか指摘しなかった曲が三曲（18「流浪の民」、34「はじまり」、39「走る川」）あり、学生の行ったタグ付けの信用性に疑問を感じるものとなった。もっとも、例えば「モルダウ」、「ヒカリ」、「川」、「走る川」などは長調に転調する部分があるため分類に迷った可能性がある。それにしても「YELL」、「流浪の民」、「はじまり」などは合唱曲としては定番に近く、歌った経験のある学生も少なからずいると思われるにもかかわらず、短調とは意識されていないことが驚きであった。ここから、特に中学生時代に歌う楽曲は長調であるか短調であるかが強く意識されていない可能性が指摘出来る。特に「YELL」は歌った経験はなくとも曲としての認知は大変に高い。この曲を短調と認識しないということは、ポピュラー由来の楽曲は歌詞にしか反応していないという仮説を立てることも可能、と感じる。

「テンポの速い曲」という項目は、チームから上がってきた 64 曲だけだと選択肢が少なくなると感じたため、教員推薦の 12 曲にあえてこれに相当する曲を挙げてある。それにもかかわらず、全体で 8 曲しかタグ付けがされなかった。1「HEIWA の鐘」、3「空駆ける天馬」、15「怪獣のバラード」、31「ジェリコの戦い」、63「新しい世界へ」、65「大地の歌」、66「野生の馬」であるが、不思議なことに新しい曲がほぼ無い。1「HEIWA の鐘」が辛うじて古くはない、と言える程度で他は 30 年以上前、昭和の曲が目白押しである。アップテンポの曲より、ビートやフレーズで選曲されることが増えた結果、新たな楽曲に「テンポによるドライブ（疾走）感」が求められていないのではないかと感じる。ただしこの項目はかなりの主観となるため、原則的に教員判断による分類になっていることを告白しておく。

「伴奏が格好いい」という項目は、演奏を評価する際にピアノの演奏による加点が見込まれるという視座から立てた項目になるが、まさしく主観でしか判断出来ないため全く客観性はない。16「虹」、20「君とみた海」、23「青葉の歌」、25「花を探す少女」、26「IN TERRA PAX」、44「消えた八月」、59「河口」、70「ひとつの朝」の八曲がタグ付けされたが 25、26 が全チームに推されていた以外は敢えて推薦チームの数に拠らず選出している。逆に 39「走る川」、40「親知らず子知らず」は四票獲得しているが選出外としている。学生にとって“テンポの変化がある”“前奏・間奏に印象深いフレーズがある”“短調で劇的表現が求められる”場合、このタグに反応しやすいと考える。ただし、19「名付けられた葉」のように、こうした選出要素を全て持っているのに推されていない曲もあり、伴奏に関しては

実際に伴奏を演奏した経験を持っていないと前奏や間奏といった「歌のない部分」のみへの印象で判断されていることが予想される。

11 項目のタグに関しては、提唱されたものを全て採用したが、「あるべき部分のチェックが抜けている」と判断したものは教員判断で追加（赤の✓）、「これは相応しくない」と判断したものは薄い橙の?に変えている。例としては 34「はじまり」の無伴奏、三拍子になる。恐らく冒頭の無伴奏部分だけに反応しているが、全体を通して無伴奏の 71「鴎」のような曲以外は採用しない。また基本拍を三分割していても 6/8 は二拍子計と捉えるので、これも採用していない。

1-3　課題曲、自由曲の決定

76 曲リストのタグを参考に、全校合唱、一年、二年、三年の課題曲と自由曲をチーム毎に選出する。候補曲を、チーム毎に提出、集計上位から採用。

候補曲としてチーム毎に、全校合唱二曲、各学年課題曲二曲、学年自由曲 30 曲（一年 8 曲、二年 10 曲、三年 12 曲）を推薦する。なお、この選出には教員による修正は行わず、純然と人気投票とする。

最終的に全校合唱一曲、各学年課題曲一曲、各学年自由曲八曲を確定することを目指す。完成したリストを次ページに示す。

全校合唱		大切なもの	
1年生	課題曲	夢の世界を	
	自由曲	時の旅人	心の中にきらめいて
		マイパラード	カリブ夢の旅
		Let's Search for Tomorrow	Tomorrow
		怪獣のバラード	この地球のどこかで
2年生	課題曲	YELL	
	自由曲	HEIWAの鐘	あなたへ ～旅立ちに寄せるメッセージ
		空駆ける天馬	君とみた海
		心の瞳	走る川
		名付けられた葉	証
3年生	課題曲	大地讃頌	
	自由曲	虹	IN TERRA PAX
		手紙 ～拝啓十五の君へ	信じる
		流浪の民	消えた八月
		春に	聞こえる

一学年4〜5クラスの中規模校を想定したため、自由曲はクラス数の二倍弱で8曲とした。曲決めには全部の曲を聴く必要があろう、と考えるとこれ以上の曲数は現実的ではないと考えたためである。音大学生に曲の選出を課した本稿のケースでも、結局楽譜から楽曲の特徴を掴めるものは決して多くはなかった。況してや中学生となれば、曲選出の根拠は耳で聞いた《聴取経験》が全てとなろう。故に曲の選択範囲は、曲数を絞らざるを得ない。逆に言えばその少ない曲数にあらゆる傾向の楽曲が含まれることが理想となる。

本研究においては、リストにタグ付けすることで「タグによる選択」を可能にすることが一つの狙いであった。その観点で完成した課題曲リストを見ると、まず全校合唱は一年から三年までが全て参加することに鑑みて一年生を優先的に選曲、なおかつ三年生まで曲の魅力を楽しめるものとして「大切なもの」。原則斉唱、ハーモニーもほぼ二声で終始する平易且つ短めの曲だが、歌詞の持つメッセージ性は学年による発達段階の違いを問わないところが支持されたのだろう。

各学年の課題曲は、各チームの推薦した課題曲の中でもっとも票を得たものを自動的に採用。ただし、全校合唱に確定した「大切なもの」は除外。

一年生の「夢の世界を」は曲の長さ、伴奏の平易さ、声域、テンポ、ディナーミクなど一年生の課題曲として妥当だと考える。唯一、後半のハーモニーが三声部に分かれることが、男声に変声前の生徒がいることを考えた時若干の困難を感じるが実際の中学校でも採用可能な選曲だと考える。

一年生の自由曲群は全て「易」タグのついたものになった。タグ付きリスト作成の効果を実感出来る。テンポの変化に富む「カリブ夢の旅」、多くの楽節に分かれて部分による表情変化が特徴の「時の旅人」、一貫してアップビートでポピュラー楽曲の「怪獣のバラード」など、バラエティは豊か。なおかつ、「易」とはいえ「Let's Search for Tomorrow」のように外国語を含むもの、「心の中にきらめいて」のように器楽曲起源の旋律を含むもの、「この地球のどこかで」のように歌詞内容が高学年をターゲットにしていると解釈出来るものなども含まれている。全体的に曲の難度が低いところが物足りないとも言えるが、その部分が逆に魅力とも言える。

二年生の課題曲「YELL」は、楽曲難度のバランスから言うと少々問題があるのだが、最多得票なのでそのまま採用した。まずこの曲は伴奏の難度が高く、声楽部分との融合に時間がかかる。いきものがかりの原曲を知っているものは恐らく多いが、その旋律が常に聞こえるように歌うには、各声部に振りわけられた主旋律を歌いこなすために求める技量にパートによって差が大きい。調性の関係から、ソプラノがかなり音域が高くなっており、原曲のような歌いこなしを求めるには発声指導が必須…と、元々がNHK合唱コンクールの課題曲であるだけにクラス合唱の課題曲には若干ハードルが高い。もう一つのネックは演奏時間の長さ。3コーラスあるため、パートへの振り分けなどで味わいを変えてはいるが、

原則同じメロディーだけで音楽空間を長時間維持する必要があり、実際の中学校でこの曲を学年の課題曲とすることは余り推奨出来ないと考える。

二年生の自由曲群は八曲中三曲が短調であることが特徴と言える。一年生には短調の曲がなかったこととは対照的である。「易」タグの曲は採用されず、そのほかの四タグは万遍なく選ばれている。「難」タグの曲は二曲ともNHK合唱コンクールの課題曲であり、ポピュラー楽曲起源でもある。課題曲「YELL」も含めると三曲がこのカテゴリに入る。さらにポピュラー楽曲起源なのは「心の瞳」にも当てはまる。一方でいかにもクラス合唱曲と言えそうな「空駆ける天馬」「名付けられた葉」「君とみた海」「走る川」も採用されており、比較的保守的な曲が多いと感じるリストになった。また、二年の自由曲群には「速」タグの曲が二曲含まれることも他の学年にはない特徴と言える。

三年生の課題曲「大地讃頌」はほぼ満票に近い支持を得た。私の認識だとこの曲は紛れもなく「古い曲」なのだが、学生達にとって学年が進むと歌う曲としては未だに定番であることが示されたと言える。ただしこの曲が元々管絃楽伴奏によるカンタータであることを知っているものはほぼ居らず、飽くまで「クラス合唱のゴール」だと認識していると思われる。また、混声四部合唱であるため、30人程度のクラスで歌うにはパート割りが難しいことも本来は視野に入れねばならない。近年のクラスの男女比は 10：9 若しくは 5：4 くらいで男性が多いケースが普通であり、人数は少なくとも声の出るソプラノ、一人一人の声は余り通らなくても大人数が声を合わせることのできるアルト、ボイストレーニングがきちんと行き届いて性質が揃ったテノール、本当の低音は出なくても音程とリズムを逸脱しないバスが一つのクラスに揃うことは期待しづらい。そういう意味で学年合唱として扱う方が、クラスの自由曲として採用するより意義が大きいと考える。ただし終結部前の男性が半音進行する部分でハーモニーが崩れるケースが大変に多く、音取りは簡単ではない（練習期間を長めにとり、定期的に指導者がチェックする）ことを十分に考慮する必要はある。

三年生の自由曲群は一年生のそれの対極になる。タグが付いていない「春に」以外は全て「難」タグが付いている曲となり、四部、五部に分かれる曲が増えている。「虹」「手紙」「信じる」「聞こえる」がNHK合唱コンクールの課題曲だったもので、ポピュラー系二曲、メッセージ系二曲と役割が分かれるのも特徴。「春に」「IN TERRA PAX」は曲集の中の一曲、「消えた八月」が反戦歌、「流浪の民」がクラシック系名曲の翻訳。曲の難度は高まり、バラエティは豊かになっているという点で、一年生の自由曲群の発展系、と言える。短調も二曲、伴奏効果の高い曲も三曲。これだけタグの傾向が色濃いと、逆にタグのない「春に」が目立つのが面白いと感じる。

決定した課題曲リストに基づき、各チームが「歌いたい自由曲」をこの中から選ぶことで、チームの“学年”が決定するものとした。

これによるA、D、Eチームが一年生、B、Cチームが二年生、Fチームが三年生となった。実際の模擬合唱コンクールの順番に並べると以下のようになる。尚、チーム構成人数はFのみが七人で残り五チームが八人。

	全校	学年課題	自由
A	大切なもの		夢の世界を時の旅人
D	大切なもの		夢の世界をLet's Search for Tomorrow
E	大切なもの		夢の世界を怪獣のバラード
B	大切なもの	YELL	心の瞳
C	大切なもの	YELL（女声版）	HEIWAの鐘（女声版）
F	大切なもの		大地讃頌　虹

1-4　審査方法

今回の模擬合唱コンクールには3種類の審査方法を同時に用いる。

・個人投票

自分のチームを除く5つのチームの演奏を、審査員と同じ五観点（声量の大小、発音の明瞭さ、速度強弱の工夫、ハーモニー、歌詞解釈）で採点する。得点は一項目につき1〜6点の六段階。

・リーダー投票

各チームのリーダは、自分のチーム以外の5チームから優秀賞を二つ選ぶ（一位、二位の区別はしない）。記名投票。また、一名のリーダーにつき一つ「特別表彰」を与えることができる。この場合、自分のチームも対象にすることができる。特別表彰は指揮者、伴奏者、ソリストなどの個人に与えることもできる。

・審査員投票

音楽の教員並びに外部から招聘された講師が観点別評価を行う。観点は五項目で、声量の大小、発音の明瞭さ、速度強弱の工夫、ハーモニー、歌詞解釈、それぞれ1〜6点で評価する。

実際にこうした外部講師を招く場合、音楽教員の数に鑑みて決めることが重要となる。音楽演奏を評価する場合、評価の観点は個人の主観に委ねられるため、複数で行うことが絶対に必要となる。学校に音楽教員が複数いる場合、多くの外部講師は必ずしも必要ではないが、日頃の練習成果などを知らない審査員が一人はいる、ということが望ましい。逆に音楽教員が一人である場合、外部講師を四人、五人と増やすと教育成果としての評価は色合いを薄めていくことになる。人選と人数はこれだけで一つの論題になる可能性まであるが、本研究では“教職実践演習”を担当する教員二名で行っている。

それぞれの審査の狙いは以下の通り。

個人投票は、「合唱コンクールとは参加するもの」という意義の確認に役立てることを狙

う。歌えばそれで終わりではなく、他のチームの演奏を聴くことを求める。敢えて審査員と同じ方法を求め、審査員投票との親和性や相違性に関心を持つことが期待出来る。ただしあまり多くの項目を求めると端から参加しない生徒が出る可能性があることと、歌ったもの全てが審査用紙を提出するため、結果の即時発表ができないところが短所となる。

リーダー投票は実際の学校においては「担任」が行うことを想定している。合唱コンクールは特別活動に属する。特に練習は学級活動がその中心を占める。学級担任の関与は必ずある。教育的成果を、音楽的な出来映えとは別の観点で示すことは、特に音楽的に優れた評価を貰えないチームへポジティブな学びを与えることを可能にできると考える。音楽の先生達はこう仰っているけれど、先生はこう考える…という「個人賞」。今回はシミュレーションなので「リーダー」という立場での投票になるが、実際の学校においても導入を求めたいと考えて居る。個人投票とは違い、即時発表が可能であるところが利点であるが、後日開示される個人投票の集計結果と矛盾した評価になる可能性もある部分が難点と考える。

審査員投票は音楽的成果の尊さを評価するもので、音楽コンクールであることを考えればこれがもっとも本質的な評価とも言えるが、前述の通り音楽部分だけにフォーカスすることで教育的な歩みを切り捨てることになる可能性はある。観点別評価にしたのは、複数審査員の評価が割れていたのか一致していたのかを検証しやすくするためである。飽くまで狙いとしては「審査員と言っても同じ見方をするわけではない」ということを実感させることであるため、音楽専科教員のみではなく、学外からの審査員を招く方が望ましいと考える。その場で集計して発表出来るため、即時性に優れる。

なお、審査員投票は点数の他に必ず所見を求める。評価としてはこちらが本質と考えるが、余り詳細にコメントしていると演奏を聴き逃す恐れがあるため、短いコメントに留まり、しっかりとしたメッセージを残せない可能性がある。これは審査員としてのキャリアやスキルに大きく左右されるので、経験豊富なメインの審査員は必ず確保すべきである。

2. 模擬合唱コンクール

2-1　審査結果

審査員投票の結果は次ページの通り。二名の審査員の課題曲と自由曲への採点結果である。巷間一般的に用いられる五点満点ではなく六点満点にしているのは、“概ねよろしい”という得点が五点法だと「3」とされるのに対し、六点法なら、「3 か 4 か」で迷うことになる。こうした複数段階のステージのどこかに当てはめる、という方式の場合、最低点を出すことは非常に稀であるため、五点法は実質的に四段階、五点法も実質的に五段階にな

ると考える。採点結果をみても、最低は「2」になっており、想定通りであった。

もう一つ、最高点も審査員にとっては「とっておき」の配点になるため出しにくいケースがある。これは個人差が大きく、20ページの採点者は最高点を出すことにためらいがないが、21ページはC、Fの演奏に至るまで最高点を“出し惜しみ”している。今回の審査においては、最高点を獲得したのが最後に演奏したFチームだったため、出し惜しみは奏功しているが、演奏順と完成度は必ずしも一致しないので、例えばAチームがもっとも優れていると、出し惜しみによって全体の得点が低く抑えられることもあり得る。

項目別評価にしたことにも狙いはあり、審査員は全部の得点記入が終わった段階ではどの演奏者がもっとも高い点を獲得したかを把握しづらくなる。最終的な順位は相対評価でなされるが、どのチームとどのチームとを比べるとどちらが優れている、という視点では点数が入れにくくなる。

評価の本質は点数ではなくコメントになると考えての審査方法を案出しているが、このコメントは詳細に描き込めば点数付与に費やす時間が減る一方、「〇〇がよい」「××が物足りない」では真意は伝わらない。飽くまで数字とコメントは相互に補完し合うものとなることが狙いだが、残念ながら審査用紙への記入を推敲する時間は殆ど無いため、これに関しては「同じ方式での審査経験」の多寡が評価の完成度に直接影響してしまう。

チーム	曲目	声量	発音	強弱表現	ハーモニー	歌詞解釈	計	コメント
A	夢の世界を	6	6	5	6	5	28	女声の声が一本にまとまっていて性質の統一が美しい ハーモニーのバランスが綺麗　二番で少しだけハーモニーが乱れた
A	時の旅人	6	6	6	4	5	27	ユニゾンは綺麗、アルトが少し弱い（ソプラノが強すぎる？） 男性パートが元気　「いまきみと」がl oct高いのでバランスが悪い　「めぐるかぜ」以降の歌詞が良く聞こえる
D	夢の世界を	4	5	4	4	3	20	一人で頑張る男性が素晴らしい　声を揃える努力を　「さあ」以降の希望に満ちた表現に物足りなさ
D	Let's Search for Tomorrow	5	4	4	5	3	21	歌い出しが合わないのは残念　男性を助けてる女声がすばらしい 「さあ」が届かない　ソプラノに伸びがないのが辛い　ピアノとのバランスに問題あり
E	夢の世界を	6	6	6	5	5	28	二人声が出ないのい凄い声量　クレシェンドの作り込みが素晴らしい 伴奏を簡易版に変えたのか…
E	怪獣のパラード	6	6	6	3	6	27	3、2、2のバランスだが、アルト・バスが一名ずつしか声が出ないのは辛い ソプラノは凄いがバランスが悪い　女声のアンサンブルはいい　ピアノも上手い　男性が音とれてない
B	YELL	6	4	5	4	3	22	編曲は混声版の方が美しい　ただし男声パートが苦しい　ピアノが歌を聴いてない 「ん」の発音で響きが消える
B	心の鐘	6	5	4	5	5	25	男声パートを一オクターブ下げた、これはファインプレイ　ソプラノの発声の問題で「ん」がつぶれる
C	YELL（女）	6	6	6	6	6	30	ソプラノの性質がいい　歌詞解釈は抜群　バランスの調整が素晴らしい
C	HEIWAの鐘（女）	6	6	5	5	6	28	混声とは違う編曲を上手に生かした　最大の強みは性質が揃っていること ピアノが少し弱いのが残念　ハーモニーは綺麗だが、編曲の問題で「薄く」感じる
F	大地讃頌	6	6	5	6	5	28	反則だが、最初をアカペラにしたのは作戦勝ち スーパーテノールとスーパーソプラノをもの凄く上手に使っている　ピアノ上手
F	虹	6	6	6	6	6	30	少人数ヴォイスアンサンブルとして完全に完成している　2Solが金を取れるレベル ※ピアノが素晴らしい

チーム	曲目	声量	発音	強弱速度	ハーモニー	歌詞解釈	計	コメント
A	夢の世界を	5	5	5	5	5	25	表情丁寧 ことば明瞭 声もよく飛んでいる もっと広がりが出せるのでは
A	時の旅人	5	5	5	4	5	24	クレシェンドが表情豊か パートのつなぎがもう少し自然に流れると良い sopとaltがやや離れた感じが惜しい
D	夢の世界を	3	4	3	3	3	16	音程は正しくとれているが小さくまとまっていて残念 ことばを語りかけていない こもっている
D	Let's Search for Tomorrow	2	3	2	3	3	13	明日への心の広がりをもっと感じたい 訴えかける力強さが欲しい 楽譜に目が向きすぎているから？
E	夢の世界を	5	4	4	5	4	22	長く伸ばしている音の中に揺らみが感じられる ことばははっきり聞こえる もう少し大切に語ると丁寧さが伝わる
E	怪獣のバラード	4	5	3	3	5	20	ユニゾンははっきりと表情が伝わってくる ハーモニーが生じるとバランスが崩れる
B	YELL	5	4	5	4	5	23	各パートが正確に表現している パートのつなぎ部分で切れてしまって残念
B	心の種	5	5	4	4	4	22	ここに表現を工夫しているが全体として聞いたときにまとまりがない 全体としての高まり深みという点で今一つ
C	YELL（女）	5	5	5	5	5	25	ことばが丁寧 主旋律の受け継ぎが自然 主旋律を支える他のパートが工夫出来ている
C	HEIWAの鐘（女）	6	5	5	6	5	27	ユニゾンからハーモニーへの広がり 表情がこれだけ出せるならことばをもう少し明瞭に伝える意識を
F	大地讃頌	6	6	5	6	5	28	一人一人が責任を持って歌っている 土の歌の構成を考えると出だしはもう少し抑え，所まで持って行けるとよい
F	虹	6	5	5	5	5	26	曲の構成を良くつかんで表現に生かしている 4パートのかけあい もう少し自然に繋ぎたい

2-2　考察

今回のレギュレーションでは、参加者全員が同じ学年を担当するやり方を採用しなかった。今までは「全員中学三年生」という想定であり、結果的に楽曲難度は高めになり、「選曲段階での有利不利」は生じにくくなっていたのだが、今回は一年生に難度の低い曲が、三年生に高い曲が集中し、三年生として模擬合唱コンクールに参加するだけで曲のグレード（格）によって有利に働いていたことは否めない。実際に審査結果は三年生として演奏したＦチームが最高点を獲得しているが､実を言えばこのやり方は想クラス数が 10 未満の小規模校ではありうる事態である。

極端なことを言えば、各学年一クラス、全校で三クラスの学校で「コンクール」を行えば勝負の帰趨は最初から見えている。三年生は“勝たねばならない”。上回れる可能性があるとすれば二年生なので、中学年のモチベーションは上がるかも知れないが、逆に二年生のパフォーマンスが凹めば一年生に抜かれる可能性もある。つまり、予定調和的に順位が想定できてしまう場合は､合唱コンクールは競技と言うより儀式に近くなる可能性がある。

だからこそ、曲目リストを学年で固定しないというやり方もあるのかもしれない、と今回の実践を通して感じた。各学年８曲の自由曲リストを一つにまとめ、24 曲から全学年が選びうる、というやり方もあるかもしれない（その場合、難度やそれを克服するための前提、技術の付与に関して教員に確立したノウハウが求められる)。

全校合唱を設けたのは「歌う雰囲気作り」という目途があったが、あくまでで模擬であるため大学生にとって「大切なもの」は難度が低く、おまけに全参加学生 50 人弱で歌うと素晴らしい完成度となった。実際の全校合唱も、発達段階の違う生徒達が歌声を合わせることで、クラス（学級活動）では体験できない音空間を体験させることが求められているはずだ。教職志望の学生達にとっては良い経験になったと思う一方、実際は“全校合唱に向けた練習”があるはずで、それは今回の実践の中に織り込むことはできなかったのが残念である。

課題曲の難度に関して､特に二年生の YELL が突出して難しかったことが反省材料になることは否定できない。チームからの投票に教員が修正を加えなかったためだが、一つのチームの成員が八人程度、特にＣチームには男声がいなかったため女声合唱版を採用した結果、混声版を使用したＢチームと同じ土俵で勝負できなかった。これは実際の中学校では起こりえない事だとは言え、クラス内の男女比は合唱に必ずしも適していないことは前述の通り。特に男声のボイストレーニングに割く時間は多くできないのが現状である。混声四部合唱は、クラス合唱ではかなり厳しいと言わざるを得ない。

そんな中、F チームはもともと七人のグループだったところがコンクール当日に伴奏担当者が参加できず欠席、歌うはずだった一人がほぼ即興で伴奏をこなし、歌う人数が五人

となったにもかかわらず四部合唱を歌いこなしていた。「これを言ったら研究の意味はない」とは思うが、成員の力量と技術が一定のレベルをクリアしていれば、かなり無謀なチャレンジであってもきちんと成果に結びつくことが証明されている。

中学校のクラス合唱とは、ヴォイスアンサンブルであるはずだが、実際には《一つのものを作り上げる共同作業》の側面が優先となる。これは特別活動としてはフィロソフィーに叶っているのだが、今回の実践では“音楽的側面の完成度如何でレギュレーションや採点システムの工夫を簡単に乗り越えるようなパフォーマンスが生まれてしまう”ことが図らずも証明された形になったことには皮肉な思いを禁じ得ない。

3. まとめ

本論の骨子は「審査方法」にあったのだが、作業を進める中でレギュレーション作りに重心が移ったことは否定できない。

特別活動としての合唱コンクールの正否は、学級内での練習、その積み重ねにある。ある意味、競技を戦略的に攻略する取り組みをメインに…そして音楽的な取り組みを副次的なものにすることで、音楽的力量を持たない教員でも「良い合唱」を作ることはできる、と考えての一連の取り組みであるが、今回の実践においては、選曲はともかく、審査システムにそうした取り組みへのヒントを見いだすには至らなかった。

この取り組みは、一回“（音楽的な）練習の仕方”のマニュアル作成の方高にシフトする必要があるかもしれないとの教訓を得て、本稿を閉じる。